

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1191900065
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	戸田ケアコミュニティそよ風
所在地	〒335-0027 埼玉県戸田市氷川町2-16-23 (電話) 048-447-9530

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月11日

【情報提供票より】(平成20年10月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7人, 非常勤 4人, 常勤換算 9.25人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	5階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	35,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,500円				

(4) 利用者の概要(10月13日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島病院、啓明クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、高齢者介護関連事業を展開する会社の複合施設の2階に2ユニット形式で整備され、20年4月1日に開設したグループホームである。周辺には目の前に広い境内を持つ名刹があり、一般住宅、商店及び中小企業が点在する交通の便がよい環境に位置している。ホーム内の居室及び廊下、リビング等の共用空間は広く機能的で清潔感が漂っている。運営については、ホームの基本方針として、地域、家族、職員との関係・連携を深め、利用者が楽しく自由に毎日過ごして頂くこと及び認知症の進行防止等を掲げ、スタート間もないにもかかわらず認知症介護経験者を中心に職員が共に手を携えている。また、併設の他の事業と連携しながら利用者一人ひとりの生活歴、心身の状況及び意見や希望等を把握し、豊かな日常生活を送って頂けるように努めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価は今回が初めてであるため、改善課題や取り組み状況はない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、事前に評価の意義や目的を職員に十分周知した上で、各職員が自分の仕事に関連した項目について現状を検証し、評価した結果を踏まえて皆で見直すことにより、ホーム全体のサービスの質が向上されるような取り組みにはなっていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議の設置については、地域住民の代表である町内会長や民生委員をはじめ利用者家族、地域包括支援センター職員及びホーム職員によって開設早々に組織され、2か月に1回のペースで開催している。会議内容もホーム運営、利用者の状況及び行事計画等を報告するとともに、出席者からの利用手続きや業務の実態等に関する質疑応答があつて、活発な会議となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時には自由に何でも遠慮なく話せるような雰囲気のおかげで、ケース記録などによって近況を説明するとともに、月1回、各利用者の暮らしぶりなどを載せた「そよ風だより」を金銭出納報告と一緒に家族に送っている。また、家族からの意見や苦情等については「伝言ノート」に記録して内容を共有し、事例によっては話し合つて解決することとしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>当初は外出時に近隣の人々との挨拶や立ち話程度であったが、次第に地区の行事や保育園訪問に出かけたり、様々なボランティアを受け入れたりしている。地域との連携については、開設して間もないこともあり事業所全体の課題であり、今後の積極的な取り組みが期待される。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所全体の理念ともいうべき「感動介護」を踏まえ、ホームとして独自の3つの基本方針を定めている。その1つの「地域、ご家族様、職員の関係・連携を深め、入居者様に楽しく自由に毎日を～」とある中に、「地域」とあり、地域密着型サービスの考え方が盛り込まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室の見やすい位置に基本方針を掲示するとともに、グループホーム会議、ケアカンファレンス、申し送り等の機会をとらえ、管理者から具体的な事例をもとに説明を受けたり、また皆で話し合ったりして共有化に努め、日ごろのケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出時での近隣住民とのあいさつや立ち話程度の交流から、次第に地区の催しや保育園の訪問に出かけたり、様々なボランティアなどを受け入れている。しかし、地域とのつきあいは、開設間もないことや事業所全体に関わる課題もあって、その取り組みは十分とは言えない。		ホーム利用者の処遇上地域とのつきあいは特に重要なことから、町内会や老人会に加入し、そこから得られる様々な情報をもとに地域活動やお祭り、文化祭等への参加及び公的機関の活用等によって、積極的に地域住民と交流できる取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作業プロセスは、評価自体今回が初めてであったため、管理者が事前に評価の異議や目的を全職員に十分周知した上で、職員個々の業務に関連する項目についての評価結果を集約することなく、管理者段階での評価にとどまっている。		評価制度に対する意義や目的を職員が十分理解できるように説明した上で、個々の職員が自分の仕事を振り返って見直す契機となるよう、職員の評価結果も活かした自己評価を行うことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は、町内会長・副会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族及びホーム職員によって構成され、2か月に1回のペースで開催している。議題もホーム運営や利用者の状況、行事計画等の報告のほか、出席者からの利用手続き、業務の内容等に関する質疑応答もあり活発な運営となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地元戸田市には、新規入居や利用者数状況報告書を毎月提出し、その際に意見や情報交換を行っている。また、生活保護受給者の入居手続きなども関係課と協議して進めている。近々、市主導の「グループホーム管理者会議」が開催されることから、今後より一層の連携強化が見込まれる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、金銭出納状況報告とともに、ホームでの日常生活や行事予定などを掲載した「そよ風だより」を送付している。なお、家族が来所された場合にはケース記録を参照し、更に詳細な情報を提供しているが、心身の状態が急変した場合には、そのつど電話やFAXで連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情等の申し立て先を重要事項説明書で説明しているが、フロアに「苦情に関するお知らせ」も掲示している。なお、今のところ苦情等は出ていないが、あった際は「申し送りノート」によってその内容を共有し、事例によっては話し合っ解決することとしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職等があった場合は、その理由や利用者の状態に応じ、心理的な不安やダメージを与えないよう、個別に挨拶したり、利用者 に配慮して敢えて話すことなく辞めるようにしている。時には、結婚や出産で退職された元職員が来所し、利用者 と懐かしげに話をしたりしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員には管理者が面接したり、業務内容や利用者への接し方など説明した後、3か月ほど日勤・早番・遅番の順に仕事を他の職員と一緒に行うことで、各利用者の状況把握と仕事の進め方についての現場研修を行っている。しかし、認知症に関する基礎的知識とケアの習得並びに将来に向けた計画的・段階的な研修の体系の策定と実践には至っていない。		新規採用職員に対する管理者の関わりと職場研修に加え、認知症に関する基礎的知識とケアの習得の研修並びに将来に向け職員の資質向上を図るための経験・職種・資格等を考慮した段階的・計画的な研修体系の策定とその実施が望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回開催されるグループホームも含めた会社全体の交流会にユニットリーダーや計画作成担当者が出席している。ただし、近在のホームとの勉強会、意見交換会及び相互訪問等はなく、県または南部地区グループホーム協議会への参加も現在のところない。		社内の事業所に限らず、近在の他グループホームともネットワークを作っ積極的に交流したり、グループホーム協議会へ参画することで更に職員の視野や面識を広め、サービス向上を図るような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同一事業所の他のサービス利用者でホーム入居を希望する方には、ホーム職員が面会、説明している。更に在宅の方も対象にした見学や2泊3日の体験入所も受け入れることで、本人をはじめ家族が納得した上で利用を開始するようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、制服着用ではなく思い思いの普段着を着用し、共に過ごすという意識を持って、一緒に食事の支度や居室の清掃及び洗たくなどを行っている。このように、職員は利用者の気持ちに沿って家庭的な雰囲気の中で共に過ごし、支えあい、そして学びながらケアに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、常に利用者の表情を観たり話を聴いたりして、その裏に隠れた心の動きを見逃すことのないよう細心の注意を払って接している。特に、入浴の際や一人遅くまでリビングにいる時などにじっくりと利用者の思いや意向をキャッチし、実現につなげている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族と面談して把握した生活歴や心身の状態に加え、意見、要望及び課題等も取り入れた「基本情報」をもとに「アセスメントシート(課題分析)」を作成し、ケアカンファレンス会議で話し合っ「介護計画(1)(2)(3)」を立てている。なお、介護計画の内容については、家族の来所時や郵送によって同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に3か月または6か月に1回、見直しをしている。日常的な観察やケース記録等から把握した生活行動や心身の変化等を評価し、家族にその結果を連絡して、意見や要望も聴いた上で新たな介護計画を作成している。また、緊急事態が起きた場合には随時見直しを行い、定期的な見直しで計画内容が変わった介護計画も同様に家族から同意を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時や入院の際に家族に代わって医療機関への移送や入院中のケアなど、状況に応じた支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から協力病院の医師に変更する場合、利用者と家族に納得と理解を得た上でやっている。また、通院の際にはバイタルチェック情報を提供するとともに、診断結果については家族に連絡している。なお、かかりつけ医への通院は家族に依頼しているが、情報提供と診断結果は家族を経由している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における対応については、家族、医師及びホームで繰り返し話し合って共有化に努めるとともに、三者による同意書を取り交わしている。なお、最終的にどのように処置するかは医師の判断によるとなっている。また、職員のターミナルケアに対するメンタル面でのケアも重視している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議で話し合っ誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけており、入浴やトイレ等身体介護の場面では特に注意している。なお、ケース台帳等の個人情報資料については、パソコンのフロッピー等と共に事務室で管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしにあっては、7時の起床から20時の就寝までの間の日課は定まっているが、できる限り利用者一人ひとりの生活パターンやその日の体調、気分に応じたペースで生活できるよう支援している。また、散歩や買い物などの外出も、その日の天候や利用者の希望によって適宜実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会社本部の栄養士が献立を作成している。時には朝食に限ってパン食もという利用者の希望にも配慮した献立によって、職員と共に食材の買い出しをし、調理して食べている。配膳や後片付けなども楽しみながら手伝っている。職員は利用者と話をしたり介助をしながら家庭的な雰囲気の中で一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常、毎日お風呂を沸かしているため、何時でも入浴できるようになっている。各利用者は生活時間帯のなかで都合のいい時間に随時入っている。なお、入浴剤を使ったり、柚子や菖蒲湯を取り入れて季節感も楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日レクリエーションの時間を設け、誕生会・敬老会・花見・収穫祭等を開催したり、踊り・歌・太鼓やバイオリン演奏等のボランティアを受け入れている。また、一人ひとりの生活歴や得意分野を踏まえ、意見や要望なども聴いて、日常的に編み物・塗り絵・貼り絵・花づくり・ハーモニカ演奏などを楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や気分にもよるが、毎日午前・午後に分けてホーム前の寺院や公園等への散歩及び近くのコンビニ・スーパーまで食材や衣類、日用品等の買い物に出かけたりしている。また、季節によっては少し遠出することで豊かな生活と五感の刺激になるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム等の出入りの鍵は、番号によるプッシュ方式であり、利用者には容易に操作しにくい構造であることから、殆んど職員が開閉している。従って、職員はできる限り個々の利用者の外出したい雰囲気や言動をキャッチし、毎日の外出で気分を紛らわせるようにしている。		構造上の問題もあるが、利用者の安全を確保しながら自由に出入りできる取り組みについて検討されることが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	4月に消防署立会いのもと事業所全体による消火・通報・避難誘導の訓練を実施した。その結果、予防管理組織や自衛消防隊の組織表を作成するよう消防署から指導を受けている。また、非常時に近隣住民の支援を得るような対策及び非常食・飲料等の備蓄も今後課題である。		ホームを含む予防管理組織や自衛消防隊の組織表の作成が期待される。また、非常時における近隣住民との支援体制を整備して参加・協力を得るとともに、非常食・飲料等の備蓄が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表には栄養価が明示されているが、朝食やおやつを含めカロリー等が利用者にとって適切かどうか、栄養士資格のあるホーム職員がチェックしている。また、食事にかかる医師の指導があればそれに沿った食事を提供している。なお、水分とあわせ摂取量を記録し、健康管理に活かしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両ユニットは、廊下のドアで左右に仕切られた形で整備され、調理室と一体化したリビング・廊下・風呂・トイレなどの共用空間は広々としており、機能的で清潔感が漂っている。特に、各居室にベランダがあったり、リビングにゆったりした9人分のソファが置かれていたりして、心安らぐ雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入口の名札もさりげなく掛けてあり、室内には使いやすいベッドなどのほか、自宅にあったタンス、机、椅子及び調度品等が置かれ、部屋によっては趣味活動の作品や家族の写真などが飾られている。なお、仏壇や位牌を持ち込むことができ、個人的で豊かな生活の場が確保されている。		